

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米国

供給頭数の減少などを背景に、肥育牛価格は高水準で推移

23年4月の牛肉生産量、と畜頭数の減少などから前年同月比11.1%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年4月の牛と畜頭数は249万3000頭（前年同月比9.6%減）とかなりの程度減少した（図1）。22年後半以降干ばつの状況がテキサス州やカンザス州など南部を除き改善傾向にあるほか、1頭当たり枝肉重量の減少もあり、同月の牛肉生産量は93万9000トン（同11.1%減）とかなり大きく減少した（図2）。この結果、23年1～4月の累計でも403万3000トンと前年同期を4.9%下回った。

図1 牛と畜頭数の推移

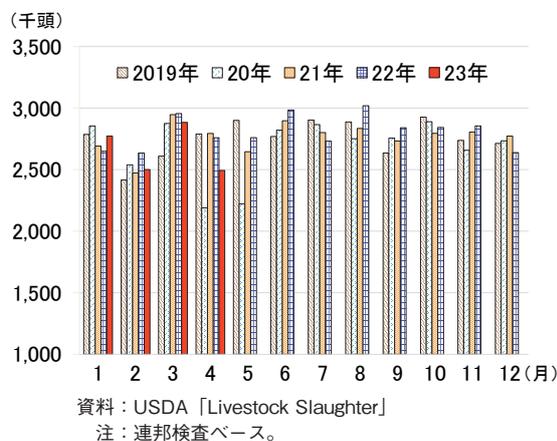
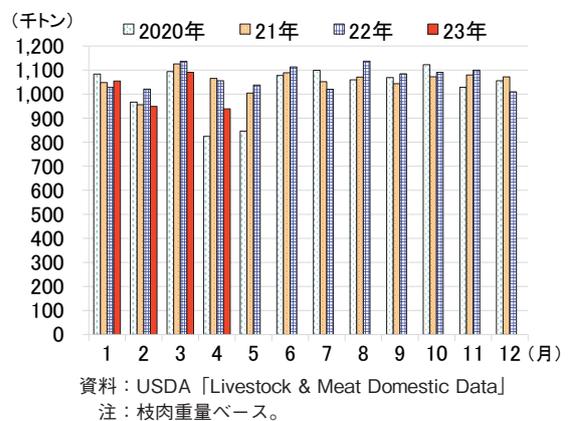


図2 牛肉生産量の推移

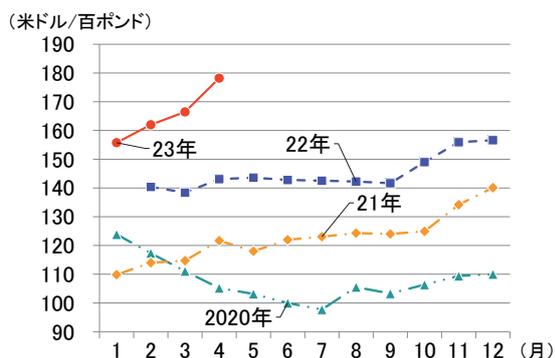


供給のひっ迫から、肥育牛価格は高騰が続く

USDA/NASSによると、2023年5月のフィードロット飼養頭数は1160万8000頭（前年同月比3.0%減）とやや減少した。肥育牛の供給ひっ迫が続く中で、需要は堅調であることから、23年4月の肥育牛価格は100ポンド当たり178.22米ドル（1キログラム当たり553円：1米ドル＝140.77円^注、同24.6%高）と大幅に上昇した（図3）。今後も夏場に向けた季節的な牛肉需要の増加などにより、同価格は高水準で推移すると予測される。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

図3 肥育牛価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]
 注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
 注2：2022年1月の値は、N/A値。

23年第1四半期の牛肉輸出量、前年同期比7.9%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年3月の牛肉輸出量は12万9591トン（前年同月比5.9%減）とやや減

少し、同年第1四半期（1～3月）累計では、35万3386トン（前年同期比7.9%減）とかなりの程度減少した（表）。第1四半期の輸出量を輸出先別に見ると、第1位の日本向けが前年同期比0.2%増と前年同期並みとなった一方、続く韓国向けが7万9568トン（同16.0%減）、中国向けが5万6469トン（同14.4%減）とそれぞれ前年同期を大きく下回った。また、メキシコ向けは、現地通貨のペソ高と観光需要の高まりを背景に、3万5183トン（同17.8%増）と大幅に増加しており、今後もこの傾向が続くと予測される。

USDAによると、23年の牛肉輸出量は減産の影響や価格高を要因に前年比8.8%減の146万2000トンと見込まれる。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年 3月	23年 3月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～3月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	30,943	27,401	▲11.4%	21.1%	84,537	0.2%
韓国	33,208	31,659	▲4.7%	24.4%	79,568	▲16.0%
中国	24,502	20,875	▲14.8%	16.1%	56,469	▲14.4%
メキシコ	10,254	12,140	18.4%	9.4%	35,183	17.8%
カナダ	11,080	9,182	▲17.1%	7.1%	26,101	▲11.8%
台湾	8,660	8,040	▲7.2%	6.2%	20,671	▲19.8%
香港	1,575	3,282	108.3%	2.5%	8,322	26.0%
フィリピン	1,223	1,906	55.8%	1.5%	4,787	30.0%
その他	16,326	15,107	▲7.5%	11.7%	37,748	▲12.3%
合計	137,772	129,591	▲5.9%	100.0%	353,386	▲7.9%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

豪州

牛肉輸出量、中国向けが大幅増で輸出先第1位に

肉牛価格は一貫して下落傾向

肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2022年末から一貫して下落傾向が続き、23年5月30日時点で1キログラム当たり584豪セント（544円：1豪ドル＝93.07円^{（注1）}、前年同日比47.4%安）と過去5カ年平均を下回って推移している（図1）。

現地報道によると、牛群再構築が完了し、牧草肥育業者の需要が落ち着いたことが価格下落の一因であるとしている。一方、豪州フィードロット協会（ALFA）と豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、23年3月末のフィードロット収容可能頭数は155万5505頭（前年同期比4.7%増）と過去最高を更新しており^{（注2）}、穀物肥育業者からの需要は継続するとみられる。

また、オランダの農協系金融機関ラボバンクによると、23年のEYCIの平均価格は22

年の平均を30%下回る同700～800豪セント（651～745円）の範囲になると予想している。

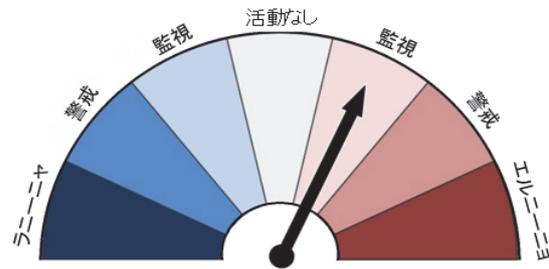
（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

（注2）海外情報「2023年3月末フィードロット収容可能頭数、過去最高を更新（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003524.html）を参照されたい。

今後の気象予報、エルニーニョ現象の可能性を示唆

豪州気象局（BOM）は5月23日、最新のエルニーニョおよびラニーニャ現象の発生見通しを公表し、エルニーニョ現象の発生確率が監視レベルにあるとしている（図2）。BOMによる過去の例を見ると、本見通しが監視レベルの場合、その後の現象の発生確率は約50%となっている。現地報道によると、（エルニーニョ現象は干ばつにもつながるこ

図2 エルニーニョおよびラニーニャ現象の発生見通し

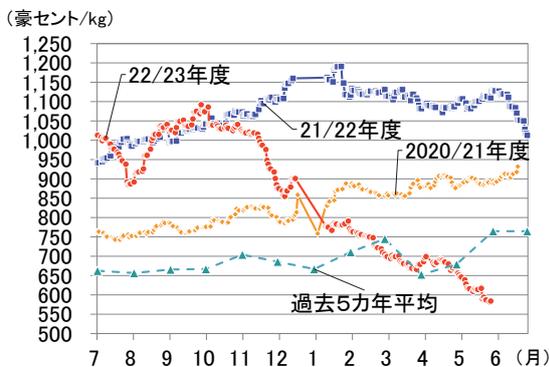


資料：BOM（一部改変）

注：エルニーニョ現象やラニーニャ現象の発生要因となる、南米からの東風（貿易風）の強弱の影響による暖水海域の変動と、太平洋西側と東側海域の気圧の差（南方振動）が連動した太平洋上の海水温の変化を考慮し、どの程度各現象の発生が見込まれるかを示したものの。警戒レベルになった場合の発生確率は、約70%に上昇するとしている。

エルニーニョ南方振動（ENSO）のさまざまな段階（エルニーニョ、ラニーニャ、中立）を経て移行する際に、ENSOがどのように進化するかを先取の評価を行う。これは、エルニーニョやラニーニャが発生する可能性やリスクの変化に基づいた段階的なアプローチを使用して、豪州コミュニティに事前に警告することを目的とする。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

とから) 牧草肥育肉牛農家から懸念の声が聞かれるとしている。

牛肉輸出量は前年同期比2割増、中国向けが大幅増で首位浮上

2023年4月は、祝日の並びから前年より食肉処理施設の稼働日数が少なかったにもかかわらず、同月の成牛と畜頭数は前年同月比で平均2割以上増加した(図3)。

また、牛肉輸出量も堅調に増加し、豪州農林水産省(DAFF)によると、同月の牛肉輸出量は7万2063トン(前年同月比16.8%増)、同年1~4月の累計でも29万2891トン(前年同期比22.6%増)と、いずれも大幅に増加している(表)。

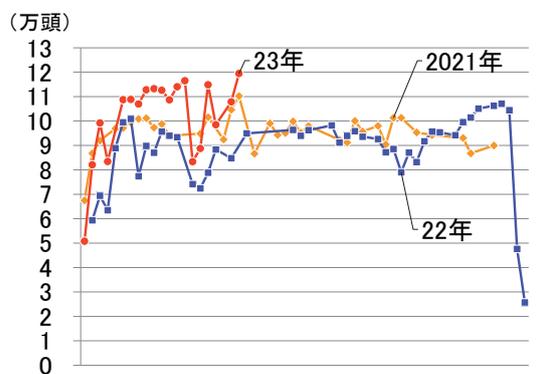
輸出先別では、中国向けが1万6745トン(前年同月比42.8%増)と約1.4倍に増加し、これまで首位にあった日本向けを抜いて最多の輸出先となった。この要因について現地報道は、旧正月後の在庫不足のほか、2月にブラジルで検出された非定型BSEによりブラジル産牛肉の輸入が3月23日に再開したものの、その後も

同国産牛肉輸入量は大きく回復していないことから、4月は豪州産牛肉への需要が高まったためとしている。そのほか、日本、韓国、米国向けなど主要輸出先も軒並み輸出量が増加した。

また、豪英FTAが5月31日に発効し、豪州産牛肉は無税の関税割当を受けたことで、今後、英国向け輸出がどの程度拡大するのか注目されている(注3)。

(注3) 海外情報「豪英FTAおよびNZ英FTAが5月31日に発効(その2: 豪州およびニュージーランド側の反応)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003535.html)を参照されたい。

図3 成牛と畜頭数の推移(週間報告)



資料: MLA Livestock Weekly

注1: 成牛のみ(仔牛は含まない)。

注2: 年末および3~4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位: トン)

	2022年 4月	23年 4月	前年同月比 (増減率)	23年 (1~4月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
中国	11,730	16,745	42.8%	59,787	31.3%
日本	13,867	15,225	9.8%	64,297	6.5%
韓国	10,658	13,586	27.5%	56,985	30.4%
米国	9,956	12,547	26.0%	50,498	36.9%
東南アジア	6,917	7,187	3.9%	33,080	37.6%
中東	2,230	1,710	▲23.3%	7,718	0.9%
EU	688	508	▲26.2%	2,033	▲13.5%
その他	5,658	4,556	▲19.5%	18,494	0.6%
輸出量合計	61,705	72,063	16.8%	292,891	22.6%

資料: DAFF

注1: 船積重量ベース。

注2: 東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3: 中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国(アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ)の合計。

(調査情報部 国際調査グループ)

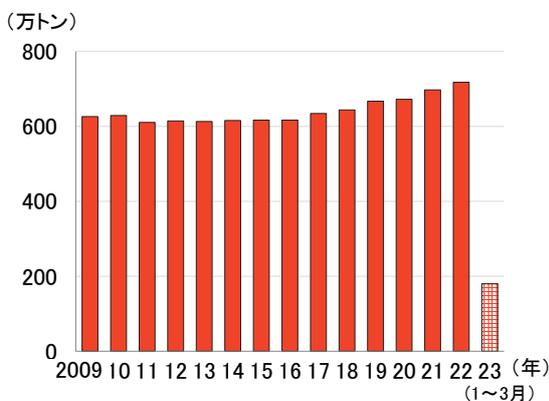
牛肉生産量の増加傾向続く

23年1～3月の牛肉生産量、前年同期比5.1%増

中国国家统计局によると、2022年の牛肉生産量は飼養頭数の増加などから前年比2.9%増の718万トンとなった(図1)。また、23年1～3月期の牛肉生産量は、前年同期比5.1%増の180万トンとなった。

23年の牛肉生産量について中国農業農村部は、同年4月に公表した「中国農業展望報告(2023—32)」(以下「展望報告」という)の中で、飼養頭数の増加などにより729万トン(前年比1.5%増)と見込んでいる。

図1 牛肉生産量の推移



資料：中国国家统计局

牛肉価格は高値ながらも下落傾向

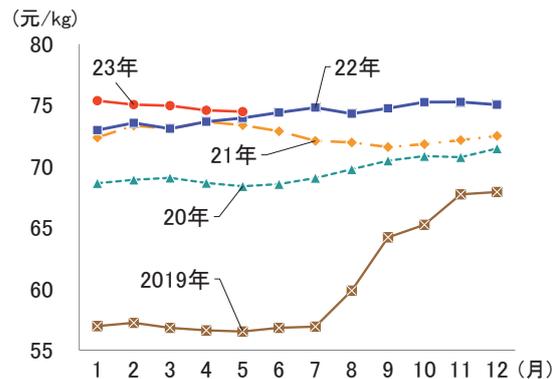
牛肉の卸売価格は、需要の拡大や飼料価格高騰などの影響で、2019年後半以降高値で推移していたが、23年に入ってから徐々に下落し、同年5月には1キログラム当たり74.5元(1491円：1元=20.01円(注1))となった(図2)。

牛肉価格について展望報告では、消費が

徐々に回復し需給がタイトな状況に向かうことなどから引き続き高値で推移すると見込んでいる。他方で、豚肉価格が下落しつつあることなどから、大幅に高騰する可能性は低く、(豚肉の価格動向に応じて)季節的に変動するとしている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

図2 牛肉卸売価格の推移



資料：中国商務部

冷凍牛肉輸入量は引き続き好調に推移

中国の牛肉輸入量は、牛肉生産量が増加基調にある一方、高まる需要に追い付かず、増加傾向で推移してきた。2022年の牛肉輸入量を見ると、輸入の大部分を占める冷凍牛肉は、263万7826トン(前年比15.7%増)とかなり大きく増加した(表1)。一方、冷蔵牛肉の輸入量は、同年11月までは前年同期を上回る勢いで推移していたが(前年同期比6.3%増)、例年輸入量が多い12月の落ち込みが影響した結果、5万2121トン(同2.7%減)とわずかに減少した(表2、図3)。23年1～4月もこの傾向が続いており、冷

凍牛肉は前年同期比16.8%増と大幅に増加した一方、冷蔵牛肉は同5.1%減とやや減少した。

牛肉輸入量について展望報告では、輸入牛肉は価格優位性があることなどから23年も引き続き増加する（前年比3.0%増）と見込んでいる。これに対し米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は4月、消費量は増加するものの輸入量は横ばい（同0.1%減）とするレポートを公表している。

図3 冷蔵牛肉の輸入量の推移

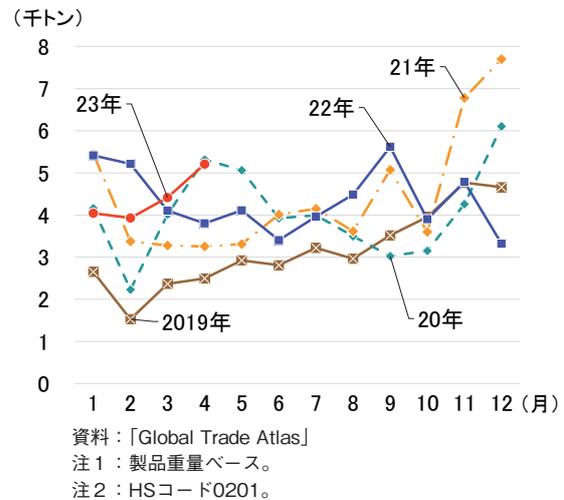


表1 冷凍牛肉の輸入先別輸入量の推移

(単位：千トン)

	2019年	20年	21年	22年	前年比 (増減率)	23年	前年同期比 (増減率)
						(1～4月)	
ブラジル	399.6	848.4	858.5	1,105.2	28.7%	333.4	60.6%
アルゼンチン	375.5	481.1	461.7	488.2	5.7%	161.3	20.2%
ウルグアイ	285.7	228.3	352.9	356.1	0.9%	93.2	▲30.5%
ニュージーランド	205.2	160.9	191.7	206.2	7.6%	72.3	6.6%
豪州	279.7	220.0	138.6	159.3	14.9%	54.0	16.2%
米国	9.0	24.6	130.7	162.0	23.9%	44.0	3.3%
その他	67.3	106.2	145.2	160.9	10.8%	40.5	▲20.6%
合計	1,622.0	2,069.6	2,279.3	2,637.8	15.7%	798.8	16.8%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコード0202。

表2 冷蔵牛肉の輸入先別輸入量の推移

(単位：千トン)

	2019年	20年	21年	22年	前年比 (増減率)	23年	前年同期比 (増減率)
						(1～4月)	
豪州	27.5	33.4	24.2	23.2	▲4.1%	7.8	▲4.5%
米国	0.9	3.5	13.2	16.4	23.8%	6.3	6.6%
ニュージーランド	9.2	8.9	10.1	9.7	▲4.2%	2.8	▲21.6%
アルゼンチン	0.1	1.5	3.5	2.3	▲34.3%	0.5	▲39.8%
ロシア	—	0.01	0.2	0.4	95.8%	0.2	552.3% (約6.5倍)
ウルグアイ	0.1	1.3	2.3	0.1	▲94.9%	0.05	▲27.7%
その他	0.1	0.1	0.01	0.003	▲64.5%	—	▲100.0%
合計	37.9	48.7	53.6	52.1	▲2.7%	17.6	▲5.1%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコード0201。

(調査情報部 阿南 小有里)

豚 肉

E U

価格上昇により豚肉輸出量が大幅減少

23年2月の豚肉生産量、すべての主要生産国で減産

欧州委員会によると、2023年2月の豚肉生産量(EU27カ国)は、166万9000トン(前年同月比10.9%減)とかなりの程度減少した(図1)。同月の1頭当たり枝肉重量は95.0キログラムと前年並みであったが、と畜頭数が1757万頭(同10.9%減)とかなりの程度減少したことが影響した。

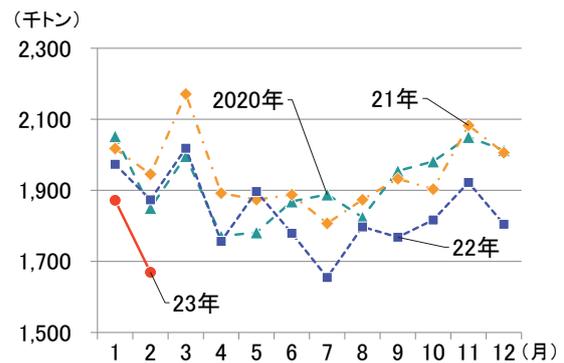
国別に見ると、EU全体の約25%の豚肉を生産するスペインは同9.4%減、約20%を生産するドイツは同13.6%減、約10%を生産するフランスは同5.5%減と、上位3カ国をはじめすべての主要生産国で前年同月を下回った(表1)。

23年の豚肉生産量について欧州委員会は、

- (1) 22年12月時点の母豚の飼養頭数の減少
- (2) 現時点でアフリカ豚熱の具体的な収束時期が見通せないこと
- (3) 輸出先からの需要の減少—などから減少と見込んでいる(注1)。

(注1) 海外情報「22年のEU豚肉生産量は減少に転じる、23年も減少予測(EU) (https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003517.html)」を参照されたい。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：直近月は速報値。
注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量の推移

(単位：千トン)

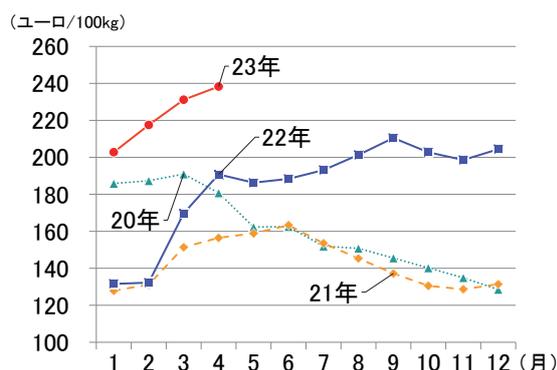
	2022年 2月	23年 2月	前年同月比 (増減率)	23年 (1~2月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	463	420	▲ 9.4%	891	▲ 6.8%
ドイツ	371	321	▲ 13.6%	682	▲ 9.7%
フランス	173	164	▲ 5.5%	345	▲ 4.2%
ポーランド	150	139	▲ 7.9%	280	▲ 7.5%
オランダ	139	119	▲ 14.9%	256	▲ 10.7%
デンマーク	142	111	▲ 22.1%	258	▲ 15.4%
イタリア	102	98	▲ 3.7%	209	▲ 1.2%
その他	331	299	▲ 9.8%	621	▲ 8.1%
合計	1,873	1,669	▲ 10.9%	3,541	▲ 7.9%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

23年4月の枝肉価格、供給減を背景に記録的な高水準

欧州委員会によると、2023年4月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比24.9%高の100キログラム当たり238.29ユーロ（3万6110円：1ユーロ＝151.54円^{（注2）}）となり、供給量の減少を背景に23年に入ってから上昇を続けている（図2）。ただし、5月の週別価格を見ると、依然高止まりにあるものの前週比0.5%安～0.0%と上昇基調は一服している。現地報道によると、欧州の北部・中央部の多くの地域で比較的涼しい気候となったことで、屋外調理（バーベ

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

キューなど）の需要が低迷していることが要因としている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

23年3月の豚肉輸出量は大幅に減少

欧州委員会によると、2023年3月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、21万2106トン（前年同月比16.1%減）と大幅に減少した（表2）。輸出先別では、首位である中国向けが同3.9%増とやや増加、第3位の英国向けが同10.5%増とかなりの程度増加したものの、第2位の日本向けは同11.9%減となるなど、ほとんどの主要輸出先で減少した。また、23年第1四半期（1～3月）の輸出量では、首位の中国向けも前年同期比4.8%減となり、英国以外の主要輸出先はいずれも減少している。

EUの豚肉価格は、主要豚肉輸出国である米国、カナダ、ブラジルの価格と比較すると大幅に上回っていることから、欧州委員会は、EU産豚肉の国際競争力の低下を懸念している。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移（EU域外向け）

（単位：トン）

	2022年 3月	23年 3月	前年同月比 (増減率)	シェア	23年 (1～3月)	
					前年同期比 (増減率)	
中国	59,890	62,230	3.9%	29.3%	186,871	▲ 4.8%
日本	38,137	33,605	▲ 11.9%	15.8%	97,222	▲ 1.9%
英国	27,400	30,289	10.5%	14.3%	81,662	5.1%
韓国	24,742	19,959	▲ 19.3%	9.4%	55,923	▲ 32.4%
フィリピン	22,091	10,975	▲ 50.3%	5.2%	28,459	▲ 45.9%
豪州	11,674	6,664	▲ 42.9%	3.1%	22,558	▲ 41.5%
その他	69,012	48,384	▲ 29.9%	22.8%	141,825	▲ 31.6%
合計	252,946	212,106	▲ 16.1%	100.0%	614,520	▲ 18.5%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部 上村 照子）

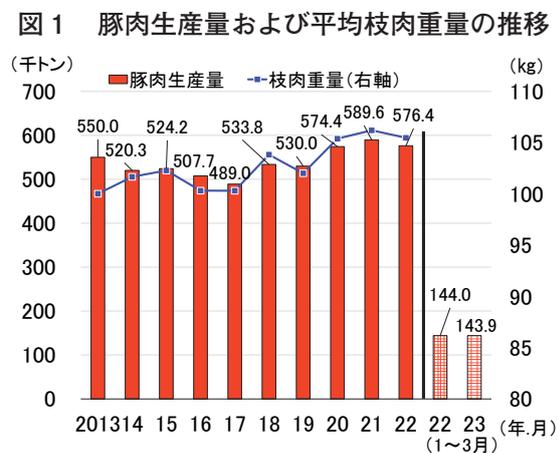
22年の豚肉生産量は3年ぶりに前年を下回る

22年の豚肉生産量、生産コスト上昇で前年比2.2%減

チリ農業省農業政策・調査局（ODEPA）によると、2022年の豚肉生産量は、57万6400トン（前年比2.2%減）と前年をわずかに下回り、3年ぶりに減少となった（図1）。また、1頭当たり平均枝肉重量^{（注1）}は、105.5キログラムと前年（106.2キログラム）より0.7%減少した。これは、輸入を中心とした飼料穀物価格が高水準で推移したことに加え、米ドルに対するチリペソ安により生産コストが上昇したことが要因とみられる。23年1～3月の豚肉生産量は、飼料穀物価格が下落傾向となったことなどから14万3900トンと前年同期並みで推移している。

近年のチリの豚肉生産量は、豚総飼養頭数が伸び悩む一方で、養豚企業による繁殖成績や飼料要求率の改善、種豚の遺伝的改良など、生産の効率化や平均枝肉重量の増加により17年以降おおむね増加傾向で推移している。

（注1）枝肉重量には頭部と皮が含まれる。



資料：ODEPA

注：枝肉重量ベース。

22年の豚肉輸出量は2年連続で前年を下回る

2022年の豚肉輸出量（冷蔵・冷凍^{（注2）}）は、17万6938トン（前年比15.5%減）と前年をかなり大きく下回った（表、図2）。豚肉輸出量は20年まで3年連続で過去最高を更新したが、その後は2年連続で減少している。

輸出先別に見ると、中国、韓国、日本向けで全体の8割弱を占めている。最大の中国向けは、同国での豚飼養頭数の回復により豚肉需給が緩和した結果、7万4801トン（同42.6%減）と大幅に減少した。このため、韓国、日本向けのほかコロンビア、コスタリカ、ペルー、メキシコといった中南米向けが前年を上回ったものの、中国向けの落ち込み分を補うには至らなかった。

23年1～3月の豚肉輸出量は、5万7356トン（前年同期比47.5%増）と前年同期を大幅に上回った。最大の中国向けは、前年同期比76.3%増と大幅に回復した。これは、前年同期の輸出量が低調であったことや新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策の規制緩和の影響によるとみられる。また、これに次ぐ日本向けも同79.6%増と前年同期を大幅に上回った。

チリは23年2月21日、環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定（CPTPP）が発効し10番目の締結国となった。チリの食肉団体は、今後、TPP加盟国への豚肉の輸出拡大につながるとしている。

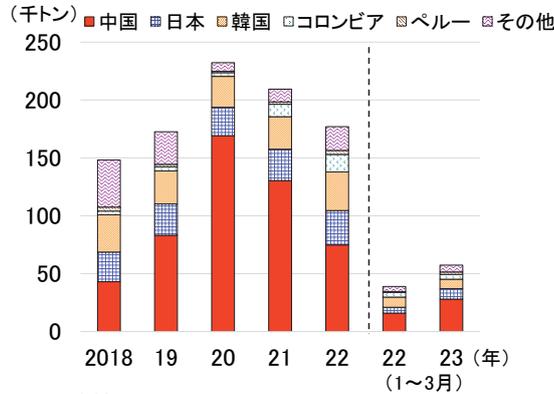
（注2）チリの豚肉輸出量は、ほとんどが冷凍品である。

表 豚肉輸出の推移

区分	2021年			22年			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	130,355	328,249	2,518	74,801	140,320	1,876	▲ 42.6%	▲ 57.3%	▲ 25.5%
韓国	28,083	144,802	5,156	33,401	157,851	4,726	18.9%	9.0%	▲ 8.3%
日本	27,106	130,481	4,814	29,679	247,462	8,338	9.5%	89.7%	73.2%
コロンビア	10,747	24,649	2,294	15,079	33,776	2,240	40.3%	37.0%	▲ 2.3%
コスタリカ	3,448	10,374	3,009	5,137	14,686	2,859	49.0%	41.6%	▲ 5.0%
ペルー	2,025	7,054	3,483	3,470	8,693	2,505	71.4%	23.2%	▲ 28.1%
メキシコ	375	871	2,324	3,386	7,317	2,161	802.9%	739.7%	▲ 7.0%
その他	7,171	23,868	3,328	11,985	39,750	3,317	67.1%	66.5%	▲ 0.4%
合計	209,310	670,347	3,203	176,938	649,855	3,673	▲ 15.5%	▲ 3.1%	14.7%

資料：ODEPA
 注1：HSコード0203。
 注2：製品重量ベース。

図2 豚肉輸出量の推移



資料：ODEPA
 注1：HSコード0203。
 注2：枝肉重量ベース。

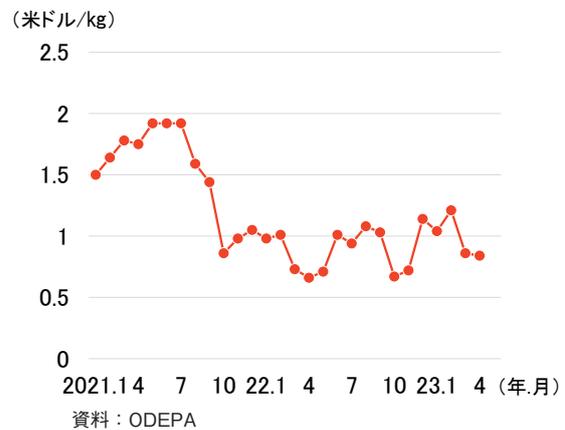
23年の肉豚生産者販売価格は前年同月を上回る水準で推移

2022年の肉豚生産者販売価格は、国内経済の低迷による豚肉の需要の減少や中国向け輸出量の減少により、前年の高値から一転して前年比41.8%安の1キログラム当たり0.89米ドル（125円：1米ドル＝140.77円^{（注3）}）となった（図3）。生産者販売価格が低下する一方で、ウクライナ情勢、天候不順などによる飼料価格の上昇や世界的なインフレ圧力の増大による生産コストの上昇により、豚肉生産者にとっては厳しい経営環境となった。23年に入ってからは、前年同月を上回って推移しており、直近の23年4月の肉豚生産者販売価格は、同0.84米ドル（118

円、前年同月比27.3%高）、1～4月の平均でも同0.99米ドル（139円、同16.9%高）となった。

（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

図3 肉豚生産者販売価格の推移



資料：ODEPA

（調査情報部 井田 俊二）

鶏肉

米 国

米国農務省、23年生産量、輸出量ともに増加を見込む

23年の鶏肉生産量はわずかに増加見込み

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2022年の米国の鶏肉生産量は、処理羽数（前年比2.4%増）、1羽当たり生体重量（同0.4%増）がともに増加したことで、2095万9000トン（同2.9%増）となった（表1）。

また、23年4月の鶏肉生産量は、処理羽数の減少により160万8000トン（前年同月比0.6%減）となったものの、1～4月の累計では、684万6000トン（前年同期比2.4%増）とわずかに増加している。23年の鶏肉生産量についてUSDAは、3月時点の親鶏の飼養羽数が増加していることを踏まえ、前年比1.8%増の2134万1000トンと見込んでいる。

表1 鶏肉生産量の推移

	2022年 (1～12月)		23年 4月		23年 (1～4月)	
		前年比 (増減率)		前年同月比 (増減率)		前年同期比 (増減率)
生産量（千トン）	20,959	2.9%	1,608	▲0.6%	6,846	2.4%
処理羽数（百万羽）	9,431	2.4%	724	▲2.0%	3,075	1.4%
生体重量（キログラム/羽）	2.94	0.4%	2.94	1.4%	2.95	1.0%

資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]

注1：連邦食肉検査済みのもの。

注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

23年4月の卸売価格は前年比大幅安も依然高水準

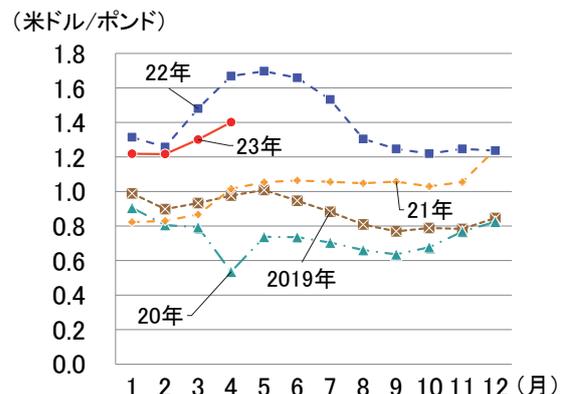
USDA/ERSによると、2023年4月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.40米ドル（1キログラム当たり434.48円：1米ドル＝140.77円^(注)、前年同月比16.0%安）となり、昨年の価格高騰時からは低下したものの、引き続き高値で推移している（図1）。

23年4月の鶏肉の期末在庫量を見ると、35万9610トン（同8.5%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図2）。USDAは、在庫水準は高いながらも需要が堅調であることが

ら、鶏肉卸売価格は安定しているとしている。

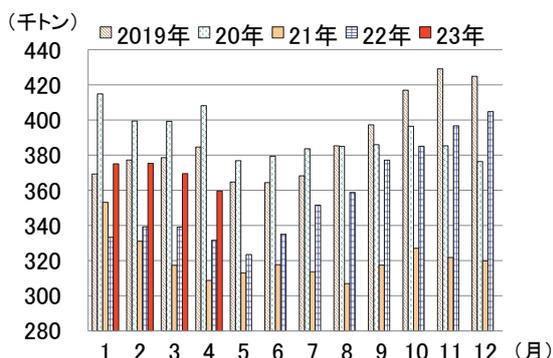
(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末のTTS相場。

図1 鶏肉の卸売価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]

図2 鶏肉在庫量の推移



資料：USDA「Cold Storage」
注：各月末在庫。

23年3月の鶏肉輸出量は減少も、同年の輸出予測を上方修正

USDA/ERSによると、2023年3月の鶏肉輸出量は28万7146トン（前年同月比

3.2%減）と前年同月をやや下回った（表2）。主要輸出先のメキシコ向け（同5.5%増）、台湾向け（同52.2%増）、中国向け（同9.3%増）は増加したものの、キューバ向け（同37.5%減）、フィリピン向け（同17.8%減）、カナダ向け（同29.5%減）などの減少が影響した。

しかし、23年第1四半期（1～3月）の輸出量では、1月の輸出が好調だったことから、前年同期比2.5%増となっている。23年の鶏肉輸出量の予測についてUSDAは、同年後半の鶏肉生産量の増加が見込まれることから、前年比1.4%増の334万9000トンと上方修正している。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年 3月	23年 3月	23年		23年 (1～3月)	
			前年同月比 (増減率)	シェア	前年同期比 (増減率)	
メキシコ	58,366	61,583	5.5%	21.4%	184,498	15.1%
台湾	18,634	28,362	52.2%	9.9%	66,718	10.9%
キューバ	29,182	18,225	▲37.5%	6.3%	70,386	▲11.3%
中国	14,474	15,813	9.3%	5.5%	43,950	▲14.1%
フィリピン	15,744	12,947	▲17.8%	4.5%	27,641	▲25.6%
カナダ	17,076	12,031	▲29.5%	4.2%	33,389	▲18.3%
グアテマラ	12,798	11,708	▲8.5%	4.1%	35,463	▲4.4%
ベトナム	9,622	9,903	2.9%	3.4%	24,911	26.6%
その他	120,633	116,575	▲3.4%	40.6%	362,404	5.7%
合計	296,529	287,146	▲3.2%	100.0%	849,360	2.5%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

（調査情報部 上村 照子）

ブラジル

23年の鶏肉卸売価格は前年の高値から下落傾向で推移

23年1～4月の鶏肉輸出量は、前年同期比14.3%増

ブラジル経済省貿易事務局（SECEX）によると、2023年1～4月の鶏肉輸出量は161万4809トン（前年同期比14.3%増）と前年同期をかなり大きく上回った（表）。これは、為替相場が米ドルに対してレアル安となっていることに加え、世界各地で感染が確認されている高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）などの影響による供給減で、ブラジル産鶏肉の需要が高まったためとみられる。輸出単価は、前年同期比5.9%高の1トン当たり1899米ドル（26万7322円：1米ドル＝140.77円^{（注1）}）となった。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは26万2782トン（同33.6%増）と前年を大幅

に上回った。これは、同国政府が22年12月、COVID-19対策として実施していた国内外の移動制限や、輸入食品に対する検査や消毒などの実施を解除する方針を打ち出したことなどが要因である。

22年に日本を抜いて第2位の輸出先となったアラブ首長国連邦（UAE）向けは12万6766トン（同22.8%減）と前年の反動で大幅に減少した。また、日本向けは13万9798トン（同8.7%増）と前年同期をかなりの程度上回り、再び中国に次ぐ輸出先となった。このほか、23年12月までインフレ対策として輸入関税の無税措置を講じているメキシコ向けは、6万9617トン（同19.4%増）と大幅に増加した。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額の推移

区分	2022年 (1～4月)			23年 (1～4月)			前年同期比 (増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	196,763	407,356	2,070	262,782	632,709	2,408	33.6%	55.3%	16.3%
日本	128,610	267,871	2,083	139,798	321,050	2,297	8.7%	19.9%	10.3%
南アフリカ共和国	119,739	85,461	714	133,958	87,002	649	11.9%	1.8%	▲9.0%
アラブ首長国連邦	164,203	318,620	1,940	126,766	252,920	1,995	▲22.8%	▲20.6%	2.8%
サウジアラビア	87,285	199,159	2,282	119,530	275,764	2,307	36.9%	38.5%	1.1%
フィリピン	70,148	73,274	1,045	75,563	66,140	875	7.7%	▲9.7%	▲16.2%
メキシコ	58,327	138,824	2,380	69,617	149,149	2,142	19.4%	7.4%	▲10.0%
韓国	51,012	101,861	1,997	68,921	146,027	2,119	35.1%	43.4%	6.1%
その他	536,326	940,569	1,754	617,874	1,135,982	1,839	15.2%	20.8%	4.8%
合計	1,412,413	2,532,994	1,793	1,614,809	3,066,743	1,899	14.3%	21.1%	5.9%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

23年5月末の鶏肉卸売価格、前年同期の2割程度安

サンパウロ大学農学部応用経済研究所(CEPEA)によると、2023年のブラジルの鶏肉卸売価格(サンパウロ州、名目価格)は下落基調で始まり、2月初旬には1キログラム当たり6.60レアル(182円:1レアル=27.62円^(注2))の安値を記録した(図)。その後、上昇に転じたが、3月下旬以降は再び下落している。直近の価格は同6.01レアル(166円、23年5月31日現在)で前年同日比21.7%安となっている。ブラジルでは、22/23年度のトウモロコシ、大豆生産はともに記録的な豊作が見込まれており、同国内の飼料穀物需給の緩和が価格低下の一要因とみられる。

22年の鶏肉価格の動向を振り返ると、米国、アジア、EUなどで感染が確認されたHPAIなどにより鶏肉の国際需給がひっ迫したことに加え、飼料などの生産コスト上昇などを反映し、3月に入り高騰した。鶏肉卸売価格は、4月に同8レアル(221円)に達し、12月半ばまで同8レアル前後で推移した。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末のSelling相場。

図 サンパウロ州の鶏肉卸売価格(丸鶏・冷蔵)の推移



ブラジルで初めて野鳥からHPAIの発生を確認

南米では、2022年末ごろから水鳥などの野鳥や家きんでHPAIの発生が確認されており、これまでベネズエラ、ペルー、エクアドル、ボリビア、コロンビア、アルゼンチン、チリ、ウルグアイ、パラグアイといった国で確認されていた。

こうした中、23年5月15日にはブラジル南東部エスピリトサント州で初めて野生の海鳥2羽から感染が確認された。その後も新たな感染が確認されたため、ブラジル農牧省は5月22日、全国を対象に動物衛生緊急事態宣言を発出した。この措置は180日間有効であり、連邦政府は、行政機関や民間組織と連携し疾病のまん延防止のための緊急行動を実施するとしている。また、同省に登録された施設では、あらゆる鳥類の展示会などの開催が無期限で停止された。ブラジルでは、これまで南東部エスピリトサント州のほか、リオネジャネイロ州、サンパウロ州、南部リオグランデドスル州の四つの州で野鳥からの感染が確認(計24例、6月7日現在)されている。

(調査情報部 井田 俊二)

牛乳・乳製品

米 国

乳価の下落大きく、経産牛飼養頭数減少へ転じる

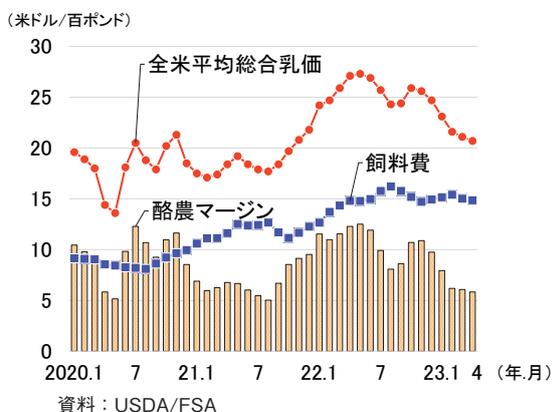
23年4月の酪農家収益、乳価下落で大幅減

米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2023年4月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり20.7米ドル（1キログラム当たり64.2円：1米ドル＝140.77円^{（注1）}、前年同月比23.6%安）と前年同月を大幅に下回った（図1）。また、飼料価格が依然高水準で推移していることから、同月の酪農マージン^{（注2）}は、同52.5%減の同5.84米ドル（同18.1円）と大幅に減少した。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2023年5月末TTS相場。

（注2）酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、^{はては}補填が発動される。

図1 酪農マージンの推移



23年4月の経産牛飼養頭数は減少に転じる

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年4月の生乳生産量は871万4000トン（前年同月比0.3%増）、乳用経産牛飼養頭数は943万頭（同0.3%増）とともに前年同月並みとなった（図2、3）。乳用経産牛飼養頭数は23年1月から増加傾向で推移してきたが、前述した乳価の下落による酪農マージンの減少などを背景に減少に転じた^{（注3）}。

現地情報によると、乳価の下落により一部の州では乳牛のと畜頭数が増加しており、今後数カ月のうちに飼養頭数は前年を下回る可能性があるとしている。

（注3）4月のテキサス州の飼養頭数は、4月10日に同州の酪農場で発生した大規模火災による乳牛の死亡を考慮し、前月比1万5000頭減となっている。

図2 生乳生産量の推移

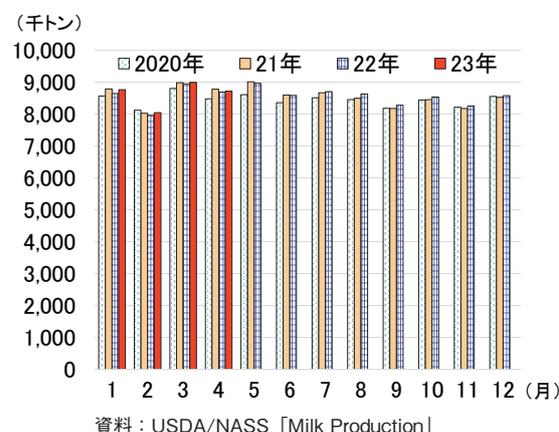
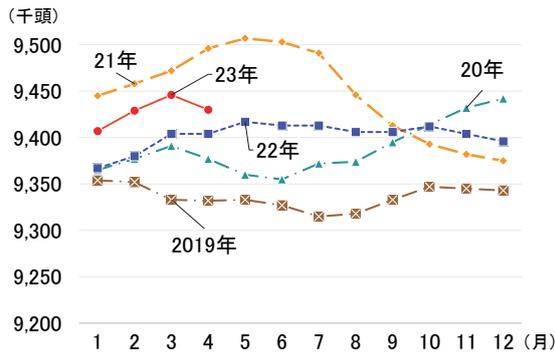


図3 乳用経産牛飼養頭数の推移



資料：USDA/NASS「Milk Production」

23年第1四半期の乳製品輸出量は好調

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年3月の乳製品輸出量は前年同月比で減少となった品目の方が多かった（表）。品目別に見ると、乳糖が前年同月比17.7%増、ホエイも同8.3%増といずれも増

加したものの、バターが同36.0%減と大幅に減少したほか、WPC（タンパク質濃縮ホエイ）が同4.1%減、脱脂粉乳が同2.7%減、チーズが同0.4%減となった。

しかし、1月の乳製品輸出が好調であったことから、23年第1四半期（1～3月）の輸出額は増加となっている。米国乳製品輸出協会（USDEC）によると、3月のメキシコ向け脱脂粉乳の輸出量が過去最高を記録するなど、中南米、カリブ海地域向け輸出が伸長しているという。一方で、EUのチーズ価格の下落などによる輸出競合国との競争に加え、インフレや中国の需要低迷などの要素により、今後数カ月間、米国乳製品輸出をめぐる環境は厳しいものになると見込んでいる。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年 3月	23年 3月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～3月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	80.2	78.0	▲2.7%	209.3	3.1%
チーズ	41.7	41.5	▲0.4%	108.4	4.2%
乳糖	33.9	39.9	17.7%	116.3	26.2%
ホエイ	19.6	21.3	8.3%	50.6	8.7%
WPC	15.3	14.7	▲4.1%	34.5	▲10.1%
バター	6.1	3.9	▲36.0%	10.8	▲26.9%

資料：USDA/ERS「Dairy Data」

注：製品重量ベース。

（調査情報部 上村 照子）

生乳取引価格は、依然高水準も下落続く

23年4月の生乳取引価格、4カ月連続で下落

欧州委員会によると、2023年4月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり48.83ユーロ（7400円：1ユーロ＝151.54円^{（注1）}、前年同月比5.6%高）となった（図1）。同価格は前年同月をやや

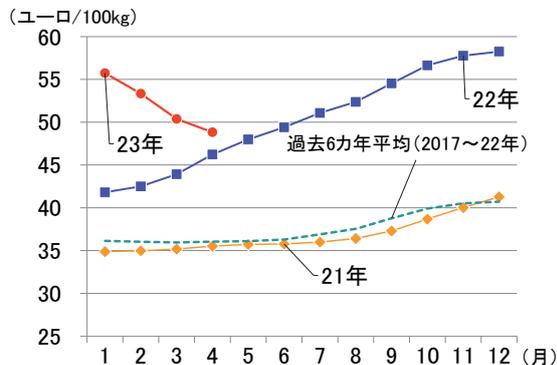
上回るなど依然として高水準にあるものの、前月比では1.6%安となり、乳製品価格の下落を背景に4カ月連続で前月を下回った。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

23年第1四半期の生乳出荷量、増加ながらも伸びは鈍化

欧州委員会によると、2023年3月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1280万9280トン（前年同月比0.7%増）とわずかに増加した（表）。主要生産国別に見ると、ドイツ（同2.1%増）、オランダ（同3.3%増）、イタリア（同1.6%増）、ポーランド（同1.5%増）が前年同月を上回った一方で、フランス（同3.0%減）は4カ月連続で前年同月を下回った。

図1 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2022年	23年	前年同月比 (増減率)	23年	前年同期比 (増減率)
	3月	3月		(1~3月)	
ドイツ	2,778	2,837	2.1%	8,151	2.7%
フランス	2,179	2,114	▲3.0%	6,064	▲1.8%
オランダ	1,187	1,227	3.3%	3,549	4.0%
イタリア	1,116	1,134	1.6%	3,246	0.1%
ポーランド	1,118	1,134	1.5%	3,246	1.4%
スペイン	651	650	▲0.1%	1,846	▲1.1%
デンマーク	486	488	0.5%	1,413	0.8%
アイルランド	833	817	▲1.8%	1,395	▲0.3%
ベルギー	388	402	3.5%	1,159	4.4%
その他	1,986	2,005	1.0%	5,673	0.0%
合計	12,722	12,809	0.7%	35,743	0.9%

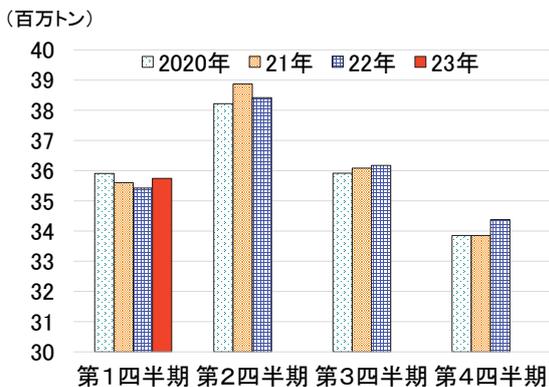
資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

また、23年第1四半期（1～3月）の生乳出荷量は、前年同期比0.9%増の3574万2780トンとわずかに増加した（図2）。直近22年第4四半期（10～12月）の増加率（同1.6%増）との比較では、出荷の伸びが鈍化している。この要因として、（1）23年に入り乳価が下落傾向で推移していること（2）3月に一部の地域で気温が平年を下回り牧草の生育が十分でなかったこと（3）スペインを中心としたイベリア半島で干ばつが観測されていることが挙げられる。

図2 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

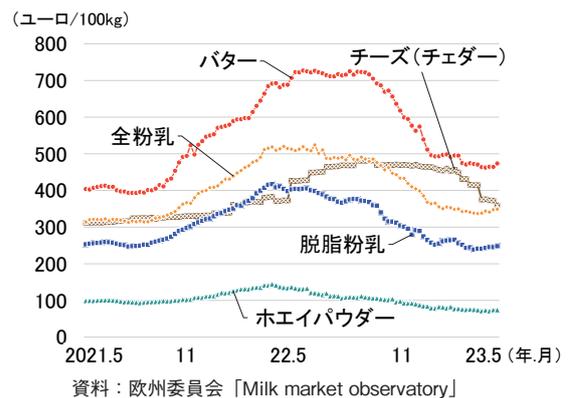
注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

23年5月の乳製品価格は前年同月を下回る

欧州委員会によると、2023年第1四半期の乳製品生産量は、脱脂粉乳が34万7700トン（前年同期比4.9%増）、バターが52万8600トン（同3.0%増）、チーズが230万

3900トン（同0.7%増）とそれぞれ増加した。これは、生乳生産量の増加に加え、同期の乳脂肪分含有量（4.20%、同0.04ポイント増）および乳タンパク質含有量（3.46%、同0.03ポイント増）の増加によるものとされている。一方、直近の23年5月28日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、高値による需要の減退からすべての乳製品において、前年同期比で大きく下落しているものの、前週比では横ばいもしくは上昇が見られ、現地報道によると、価格の下落に伴い輸出需要が発生しているという。品目別では、バターが100キログラム当たり474ユーロ（7万1830円、同34.5%安）、脱脂粉乳が同248ユーロ（3万7582円、同38.6%安）、全粉乳が同349ユーロ（5万2887円、同31.4%安）、チーズ（チェダー）が同359ユーロ（5万4403円、同15.6%安）、ホエイが同75ユーロ（1万1366円、同44.2%安）となった（図3）。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

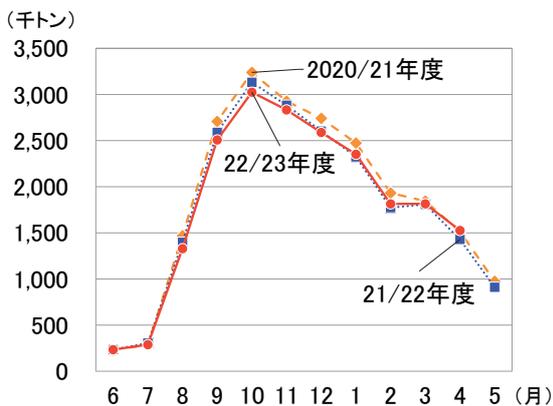
（調査情報部 上村 照子）

生乳生産は好調も、乳製品国際相場の低迷から乳価は引き下げへ

23年4月の生乳生産量、過去最高を記録

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2023年4月の生乳生産量は152万6000トン（前年同月比6.8%増）と前年同月をかなりの程度上回り、4月単月としては過去最高を記録した（図1）。この結果、22/23年度（6月～翌5月）同月までの累計は2031万2000トン（前年同期比0.8%減）となり、減少幅は前月から0.6ポイント

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

縮小した。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、全国的に適度な降雨に恵まれ土壌水分量が高まったことで、牧草の生育が良好であったことを挙げている。

また、5月の生乳生産量についてNZXは、冬季に向かう中で寒波の襲来と日照不足により、一部地域では牧草への影響が懸念されているものの、全国的には牧草の生育状況が順調なことから前年を上回ると予測している。

乳製品輸出量、主要4品目すべてで大幅増

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2023年4月の乳製品輸出量は、主要4品目すべてで前年同月を上回った（表1、図2）。

これは、前年が最大の輸出先である中国の需要低迷（COVID-19拡大に伴う景気後退）により輸出量が大きく落ち込んだことの反動によるところが大きく、同国向けの輸出量は主要4品目すべてで大幅増となった（表2）。

表1 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2022年 4月	23年 4月	前年同月比 (増減率)	22/23年度 (7月～翌4月)	
				22/23年度 (7月～翌4月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	24,861	43,416	74.6%	377,756	36.5%
全粉乳	105,627	143,306	35.7%	1,187,991	▲ 1.8%
バターおよびバターオイル	33,718	44,772	32.8%	408,302	26.2%
チーズ	29,630	36,926	24.6%	340,037	19.9%
合計	193,837	268,419	38.5%	2,314,086	10.5%

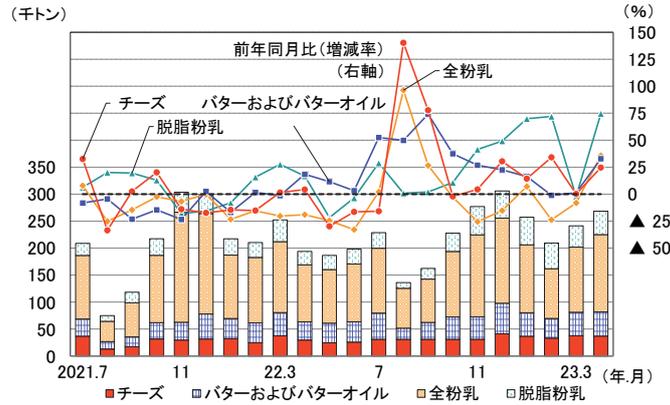
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出品および前年同月比（増減率）の推移



この結果、主要4品目の輸出額合計も17億2546万NZドル（1491億8327万円：1NZドル＝86.46円^(注1)、前年同月比28.8%増）と前年同月を大幅に上回った。

一方、最近の乳製品国際価格に目を向けると、中国の乳製品需要の回復が業界予想に比べ遅れており、全粉乳と脱脂粉乳の価格は過去5年平均以下の水準にある。こうした背景から、NZ乳業大手フォンテラ社は5月25日、22/23年度の生産者支払乳価を生乳の固形分^(注2)1キログラム当たり平均0.1NZドル（9円）引き下げ、同8.2NZドル（709円）とすることを発表した^(注3)。また、同日には23/24年度の当初乳価も発表し、同8.0NZ

ドル（692円）にするとした。引き下げに踏み切った理由について同社のハレル最高経営責任者は、「最近の乳製品の国際相場は、乳価を維持できる程のレベルに回復していない」とし、23/24年度の当初乳価についても「中国経済の回復時期や程度はいまだ不透明であり、同国の全粉乳国内在庫が通常レベルを上回っていることを反映している」とコメントした。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場の2023年5月末TTS相場。
(注2) 乳脂肪分および乳たんぱく質。
(注3) 海外情報「フォンテラ社、22/23年度乳価の引き下げと23/24年度当初乳価を発表（NZ）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003544.html)を参照されたい。

表2 輸出先別乳製品輸出品の推移（23年4月）

(単位：トン)

品目	脱脂粉乳		全粉乳		バターおよびバターオイル		チーズ	
	前年同月比(増減率)	前年同月比(増減率)	前年同月比(増減率)	前年同月比(増減率)	前年同月比(増減率)	前年同月比(増減率)	前年同月比(増減率)	
中国	11,667	125.9%	51,084	45.8%	10,243	17.7%	12,082	28.3%
インドネシア	4,585	29.6%	7,295	23.6%	1,444	28.8%	1,429	▲2.8%
マレーシア	2,676	▲2.4%	2,917	▲7.6%	1,330	▲1.3%	958	15.6%
豪州	708	247.6%	4,932	8.0%	2,898	21.2%	3,751	34.1%
日本	0	▲100.0%	239	135.6%	1,131	93.0%	5,400	5.5%
韓国	48	▲48.5%	198	▲84.7%	1,155	56.3%	3,542	139.9%
その他	23,731	84.6%	76,639	37.9%	26,570	41.1%	9,763	14.5%
合計	43,416	74.6%	143,306	35.7%	44,772	32.8%	36,926	24.6%

資料：Stats NZ
注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。
注2：製品重量ベース。

(調査情報部 工藤 理帆)

生乳生産量増加も乳価の下落止まらず

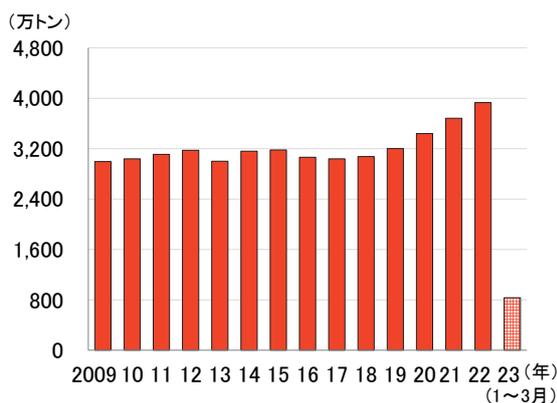
生乳生産量、前年同期比8.5%増

中国国家统计局によると、2023年1～3月の生乳生産量は、前年同期比8.5%増の834万トンとなった（図1）。

23年の生乳等生産量^{（注1）}について中国農業農村部は、4月に公表した「中国農業展望報告（2023—32）」（以下「展望報告」という）の中で、飼養管理の効率化などにより酪農の競争力強化が進む結果、4227万トン（前年比5.0%増）と見込んでいる。これに対し米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は5月、高泌乳牛の増加や飼養管理技術の向上などから同生産量を4218万トン（うち生乳は4100万トン：同4.3%増）とするレポートを公表している。

（注1）牛由来の生乳のほか、ヤクやヤギなど由来の乳を含む生産量。展望報告では、生乳のみの生産量見込みは示されていない。

図1 生乳生産量の推移



資料：中国国家统计局、中国乳業年鑑

生乳価格の下落止まらず

中国の生乳価格は、2021年9月以降緩やかな下落傾向で推移しており、23年5月には1キログラム当たり3.88元（78円：1元＝

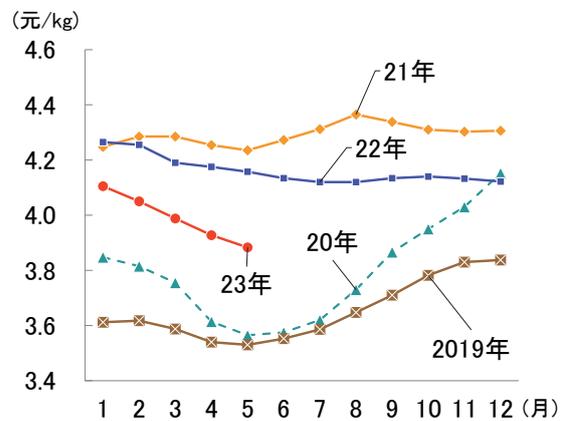
20.01円^{（注2）}となった（図2）。

この要因について現地専門家からは、（1）国内の生乳生産量が増加している一方、（2）COVID-19の拡大やゼロコロナ政策に起因する需要減退からの回復が進んでいないこと、さらに（3）これまで乳業各社は、生乳を保存性の高い粉乳に加工することで需給調整を図ってきたが、吸収余力が限界を迎えたこと一が挙げられた。

23年の生乳価格について展望報告では、需要が緩やかに回復していることなどから、現在の下落傾向は緩和されると見込んでいる。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

図2 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

乳製品輸入量は4品目で減少傾向継続

2023年1～4月の主要乳製品8品目の輸入量は、半数となる4品目で減少した（表）。このうち、最も減少幅が大きかった全粉乳については、通例であれば年間輸入量の2～3割程度が輸入される1月の実績が大幅に少な

かったこと（前年同月比79.8%減）が響いたとみられる^(注3)（図3）。

同年の乳製品輸入量について展望報告では、国内の生産・在庫量の増加から粉乳の輸入量は減少するものの、国際価格の下落が見込まれることで飲用乳とヨーグルトの輸入量

が増加し、前年比増で推移すると見込んでい

(注3) 減少要因など詳細は、『畜産の情報』2023年5月号「乳製品需給の緩和から乳価の下落傾向強まる」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002712.html)を参照されたい。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

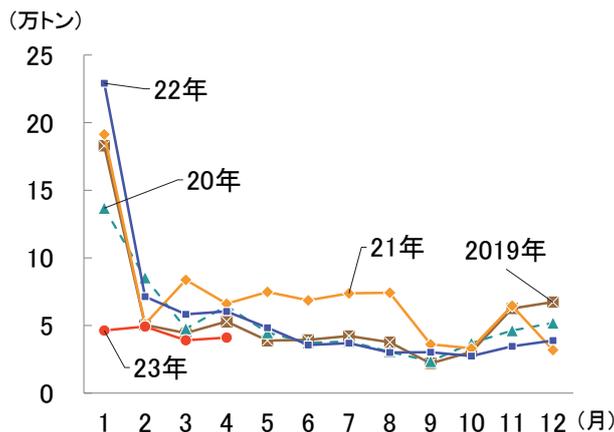
(単位：万トン)

	2019年	20年	21年	22年	23年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】
							前年同期比 (増減率)
全粉乳	67.1	64.4	84.9	70.1	17.6	▲58.1%	▲55.1%
脱脂粉乳	34.4	33.6	42.6	33.5	14.8	19.6%	29.8%
飲用乳	72.9	84.5	99.6	72.2	16.2	▲38.4%	▲22.3%
ヨーグルト	3.2	2.8	2.5	2.2	0.6	▲36.1%	▲22.8%
チーズ	11.5	12.9	17.6	14.5	5.5	7.1%	30.2%
バター	6.2	8.6	9.7	10.1	3.5	▲19.7%	▲3.5%
育児用調製粉乳	35.6	34.8	27.3	28.0	11.0	38.4%	57.8%
ホエイ	45.1	62.3	71.8	59.9	22.1	43.9%	44.1%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

図3 全粉乳輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0402.21と0402.29。

(調査情報部 阿南 小有里)

飼料穀物

世界

23/24年度の米国の輸出量は大幅増も、ブラジルが引き続き最大の輸出国に

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年5月12日、23/24年度最初の世界のトウモロコシ需給予測値を公表した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は12億1963万トン（前年度比6.0%増）と前年度をかなりの程度上回り、過去最高値が見込まれている。地域別に見ると、ウクライナやブラジルなどは前年度から減少するものの、ブラジルの減少幅はわずかとなり高水準を保つと見込まれている。一方、米国やアルゼンチンなどは前年度から増加に転じ、特に、干ばつなどの影響を受けて22/23年度の生産量が減少したアルゼンチンは、5400万トン（同45.9%増）と前年度から大幅な増加が見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億8450万トン（同5.2%増）と前年度からやや増加が見込まれている。地域別に見ると、中国のほかエジプトやベトナムなどの増加が見込まれている。米国やブラジルなど主要輸出地域からの豊富な供給が予測される中、世界的なトウモロコシ価格の下落も予想されていることから、多くの地域で輸入量が増加するとみられている。

消費量は、世界全体で12億414万トン（同3.7%増）と前年度からやや増加し、過去最高値が見込まれている。地域別に見ると、最大の消費国である中国は3億400万トン（同1.7%増）とわずかに増加するほか、トウモロコシ価格の下落が飼料用の需要を促進することから、多くの地域で消費量が増加すると見込まれている。

輸出量は、世界全体で1億9526万トン（同11.3%増）と前年度からかなり大きな増加が見込まれている。地域別に見ると、増産が見込まれる米国は5334万トン（同18.3%増）と前年度から大幅な増加が、また、ブラジルは減産ながらも5500万トン（同3.8%増）とやや増加が見込まれており、前年度に引き続きブラジルが世界最大の輸出国となると見込まれている。

この結果、期末在庫は3億1290万トン（同5.2%増）と前年度からやや増加すると見込まれている。

今回の予測は、過去の傾向に基づく平年並みの作付け状況と好天下における生育を前提に想定されているため、今後の状況に注視する必要がある。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2023年5月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

区 分	2021/22 年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		
			(5月予測)	前年度比 (増減量)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	31.36	34.98	35.98	1.00	2.9%
生産量	382.89	348.75	387.75	39.00	11.2%
輸入量	0.62	1.02	0.64	▲ 0.38	▲ 37.3%
消費量	317.12	303.67	314.59	10.92	3.6%
輸出量	62.78	45.09	53.34	8.25	18.3%
期末在庫	34.98	35.98	56.43	20.45	56.8%
アルゼンチン					
期首在庫	1.18	1.50	1.50	0.00	0.0%
生産量	49.50	37.00	54.00	17.00	45.9%
輸入量	0.01	0.01	0.01	0.00	0.0%
消費量	14.50	12.00	13.50	1.50	12.5%
輸出量	34.69	25.00	40.50	15.50	62.0%
期末在庫	1.50	1.50	1.51	0.01	0.7%
ブラジル					
期首在庫	4.15	3.97	7.97	4.00	2.0倍
生産量	116.00	130.00	129.00	▲ 1.00	▲ 0.8%
輸入量	2.60	1.00	1.20	0.20	20.0%
消費量	70.50	74.00	76.50	2.50	3.4%
輸出量	48.28	53.00	55.00	2.00	3.8%
期末在庫	3.97	7.97	6.67	▲ 1.30	▲ 16.3%
ウクライナ					
期首在庫	0.83	6.09	1.39	▲ 4.70	▲ 77.2%
生産量	42.13	27.00	22.00	▲ 5.00	▲ 18.5%
輸入量	0.02	0.00	0.00	0.00	-
消費量	9.90	6.20	5.50	▲ 0.70	▲ 11.3%
輸出量	26.98	25.50	16.50	▲ 9.00	▲ 35.3%
期末在庫	6.09	1.39	1.39	0.00	0.0%
EU					
期首在庫	7.83	11.21	7.48	▲ 3.73	▲ 33.3%
生産量	71.37	52.97	64.30	11.33	21.4%
輸入量	19.74	24.50	20.00	▲ 4.50	▲ 18.4%
消費量	81.70	78.60	79.50	0.90	1.1%
輸出量	6.03	2.60	5.00	2.40	92.3%
期末在庫	11.21	7.48	7.28	▲ 0.20	▲ 2.7%
中国					
期首在庫	205.7	209.14	205.32	▲ 3.82	▲ 1.8%
生産量	272.55	277.20	280.00	2.80	1.0%
輸入量	21.88	18.00	23.00	5.00	27.8%
消費量	291.00	299.00	304.00	5.00	1.7%
輸出量	0.00	0.02	0.02	0.00	0.0%
期末在庫	209.14	205.32	204.30	▲ 1.02	▲ 0.5%
世界計					
期首在庫	292.91	308.15	297.41	▲ 10.74	▲ 3.5%
生産量	1,217.31	1,150.20	1,219.63	69.43	6.0%
輸入量	184.49	175.41	184.50	9.09	5.2%
消費量	1,202.07	1,160.94	1,204.14	43.20	3.7%
輸出量	206.18	175.44	195.26	19.82	11.3%
期末在庫	308.15	297.41	312.90	15.49	5.2%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 針ヶ谷 敦子)

23/24年度の大豆需給、南米の生産増などから生産、輸出は増加見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年5月12日、23/24年度最初の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の生産量は4億1059万トン（前年度比10.8%増）とかなりの程度増加が見込まれている。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億6300万トン（同5.2%増）と前年度に続き過去最大の生産量が見込まれている。これに次ぐ米国は、作付面積は前年度同ながらも単収の増加見込みから1億2274万トン（同5.5%増）、アルゼンチンは乾燥気候の影響で減産となった前年度からの回復見込みから4800万トン（同77.8%増）とされた。さらに中国も、政策による大豆生産の振興を受けて2050万トン（同1.1%増）と見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億6977万トン（同2.8%増）とわずかな増加が見込まれている。このうち、最大の輸入国である中国は、国内生産量の増加を上回る需要により1億トン（同2.0%増）と見込まれている。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億3231万トン（同6.1%増）とかなりの程度増加が見込まれている。このうち、最大の消費国である中国は、搾油向け需要の回復などから9500万トン（同4.4%増）と見込まれている。

輸出量は、世界全体で1億7241万トン（同2.4%増）とわずかな増加が見込まれている。このうち、最大の輸出国であるブラジルは生産量の増加を受けて9650万トン（同3.8%増）とされたが、これに次ぐ米国は5375万トン（同2.0%減）と減少が見込まれている。

この結果、期末在庫は1億2250万トン（同21.2%増）と大幅な増加が見込まれている。

今回の予測では、ブラジルやアルゼンチンの生産量が増加する中で、輸出量や消費量も増加とされたが、市場関係者の当初予想を上回る期末在庫であることから、USDAは生産者販売価格を1ブッシェル当たり12.10米ドル（同14.8%安）に引き下げている。しかし、今回の予測では、天候条件が通常または好天と想定されているため、今後の状況変化による生産量や輸出量への影響を注視する必要がある。

表 主要国の大豆需給見通し（2023年5月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		
			(5月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	6.99	7.47	5.86	▲ 21.6%
	生産量	121.53	116.38	122.74	5.5%
	輸入量	0.43	0.54	0.54	0.0%
	消費量	59.98	60.42	62.87	4.1%
	輸出量	58.72	54.84	53.75	▲ 2.0%
	期末在庫	7.47	5.86	9.11	55.5%
ブラジル	期首在庫	29.58	27.60	33.10	19.9%
	生産量	130.50	155.00	163.00	5.2%
	輸入量	0.54	0.50	0.45	▲ 10.0%
	消費量	50.71	53.25	55.75	4.7%
	輸出量	79.06	93.00	96.50	3.8%
	期末在庫	27.60	33.10	40.35	21.9%
アルゼンチン	期首在庫	25.06	23.90	18.15	▲ 24.1%
	生産量	43.90	27.00	48.00	77.8%
	輸入量	3.84	8.30	5.70	▲ 31.3%
	消費量	38.83	31.50	36.50	15.9%
	輸出量	2.86	3.30	4.60	39.4%
	期末在庫	23.90	18.15	24.05	32.5%
中国	期首在庫	30.86	30.32	35.80	18.1%
	生産量	16.40	20.28	20.50	1.1%
	輸入量	91.57	98.00	100.00	2.0%
	消費量	87.90	91.00	95.00	4.4%
	輸出量	0.10	0.10	0.10	0.0%
	期末在庫	30.32	35.80	38.20	6.7%
世界計	期首在庫	100.06	98.67	101.04	2.4%
	生産量	359.85	370.42	410.59	10.8%
	輸入量	156.59	165.20	169.77	2.8%
	消費量	314.23	313.31	332.31	6.1%
	輸出量	154.02	168.37	172.41	2.4%
	期末在庫	98.67	101.04	122.50	21.2%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

23/24年度の米国の生産量は過去最高の見込み

米国農務省世界農業観測ボードUSDA/WAOBは2023年5月12日、2023/24年度（9月～翌8月）最初の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

生産量は、152億6500万ブッシェル（3億8775万トン^{（注1）}、前年度比11.2%増）と作付面積と単収の増加を受けて、前年度からかなり大きく増加し、過去最高値が見込まれている。

消費量は、123億8500万ブッシェル（3億1459万トン、同3.6%増）と、世界的な増産によるトウモロコシ価格の下落予測に伴う飼料向けなどの増加を受けて、前年度からやや増加すると見込まれている。

輸出量は、21億ブッシェル（5334万トン、同18.3%増）と前年度から大幅に増加すると見込まれている。

期末在庫は、総供給量が総消費量を上回ることによって22億2200万ブッシェル（5644万トン、同56.8%増）と前年度から大幅に増加し、16/17年度以来の高水準が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、15.3%（同5.0ポイント増）と前年度を大幅に上回る水準が予測されている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.80米ドル（676円。1キログラム当たり26.6円：1米ドル＝140.77円^{（注2）}）と、前年度から大幅に下落すると見込まれている。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2023年5月12日米国農務省公表）

区 分	－単位－	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		前年度比 (増減率)
				(5月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	93.3	88.6	92.0	37.23 (百万ヘクタール)	3.8%
収穫面積	(百万エーカー)	85.3	79.2	84.1	34.03 (百万ヘクタール)	6.2%
単収	(ブッシェル/エーカー)	176.7	173.3	181.5	11.39 (トン/ヘクタール)	4.7%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,377	1,417	35.99 (百万トン)	2.9%
生産量	(百万ブッシェル)	15,074	13,730	15,265	387.75 (百万トン)	11.2%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	40	25	0.64 (百万トン)	▲37.5%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,333	15,147	16,707	424.37 (百万トン)	10.3%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,484	11,955	12,385	314.59 (百万トン)	3.6%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,721	5,275	5,650	143.52 (百万トン)	7.1%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,764	6,680	6,735	171.08 (百万トン)	0.8%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,326	5,250	5,300	134.63 (百万トン)	1.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,471	1,775	2,100	53.34 (百万トン)	18.3%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,956	13,730	14,485	367.93 (百万トン)	5.5%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,417	2,222	56.44 (百万トン)	56.8%
期末在庫率	(%)	9.2	10.3	15.3		5.0ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.00	6.60	4.80	26.6 (円/kg)	▲27.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

今回の予測は、過去の傾向に基づく平年並みの作付け状況と好天下における生育を前提に想定されているため、今後の状況に注視する必要がある。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

(調査情報部 針ヶ谷 敦子)

中国

23/24年度のトウモロコシおよび大豆の需給見通し

23/24年度のトウモロコシ生産量は過去最高の見込み

中国農業農村部は5月12日、最新の「中国の農産物需給状況分析」を公表した。このうち、2023/24年度（10月～翌9月）最初のトウモロコシの需給見通しは次の通りである（表1）。

生産量は、作付面積および単収の増加により過去最高となる2億8234万トン（前年度比1.9%増）と見込まれている。

輸入量は1750万トン（同2.8%減）とわ

ずかな減少が見込まれているが、記録的な輸入量となった21/22年度との比較では4割を超える減少となる。

消費量は2億9300万トン（同0.9%増）とわずかな増加が見込まれており、引き続き消費の6割強を占める飼料向けがけん引している。

この結果、同年度のトウモロコシの過不足は683万トン（同45.9%増）のプラスが見込まれている。

また、同年度の国内のトウモロコシ生産地平均卸売価格については、1トン当たり

表1 中国のトウモロコシ需給見通し（2023年5月12日中国農業農村部公表）

区分	—単位—	2021/22年度	22/23年度	23/24年度	
			(推計値)	(5月予測)	前年度比(増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	43,324	43,070	43,470	0.9%
収穫面積	(千ヘクタール)	43,324	43,070	43,470	0.9%
単収	(キログラム/ヘクタール)	6,291	6,436	6,495	0.9%
生産量	(万トン)	27,255	27,720	28,234	1.9%
輸入量	(万トン)	2,956	1,800	1,750	▲2.8%
総供給量(生産量+輸入量)	(万トン)	30,211	29,520	29,984	1.6%
消費量	(万トン)	28,770	29,051	29,300	0.9%
食用向け	(万トン)	965	980	991	1.1%
飼料向け	(万トン)	18,600	18,800	18,900	0.5%
工業向け	(万トン)	8,000	8,100	8,238	1.7%
種子向け	(万トン)	195	191	193	1.0%
その他向け	(万トン)	1,010	980	978	▲0.2%
輸出量	(万トン)	0	1	1	—
総消費量(消費量+輸出量)	(万トン)	28,770	29,052	29,301	0.9%
差引数量(総供給量-総消費量)	(万トン)	1,441	468	683	45.9%

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

2400～2600円（4万8024円～5万2026円：1元＝20.01円^(注)）と前年度並みの高い水準での推移が見込まれている。

23/24年度の大豆生産量は大幅増も輸入量はわずかな減少

2023/24年度最初の大豆の需給見通しは次の通りである（表2）。

生産量は、作付面積および単収の増加により2146万トン（前年度比5.8%増）と見込まれている。

輸入量は9422万トン（同1.0%減）とわずかな減少が見込まれており、記録的な輸入量となった20/21年度（9978万トン）から556万トンの減少となる。

消費量は1億1414万トン（同1.1%増）とわずかな増加が見込まれおり、引き続き消費の8割強を占める搾油向けがけん引している。

この結果、同年度の大豆の過不足は139万トン（同43.7%減）のプラスが見込まれ

ている。

また、同年度の国内の大豆平均卸売価格については、1トン当たり5600～5800円（11万2056円～11万6058円）と前年度に比べ同200円程度の下落とされたが、引き続き高い水準での推移が見込まれている。

USDA予測を下回るトウモロコシと大豆の輸入量、今後の動向が注目

米国農務省（USDA）が5月12日に公表した2023/24年度最初の世界の穀物需給予測値と比較すると、同年度の中国のトウモロコシおよび大豆の輸入量はいずれもUSDAの予測値を下回っている（トウモロコシは550万トン減、大豆は578万トン減）。このため、国際相場に影響を及ぼす今後の中国の輸入動向が注目されている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年5月末TTS相場。

表2 中国の大豆需給見通し（2023年5月12日中国農業農村部公表）

区 分	—単位—	2021/22年度	23/24年度		
			(推計値)	(5月予測)	前年度比(増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	8,400	10,243	10,443	2.0%
収穫面積	(千ヘクタール)	8,400	10,243	10,443	2.0%
単収	(キログラム/ヘクタール)	1,952	1,980	2,055	3.8%
生産量	(万トン)	1,640	2,029	2,146	5.8%
輸入量	(万トン)	9,160	9,520	9,422	▲1.0%
総供給量(生産量+輸入量)	(万トン)	10,800	11,549	11,568	0.2%
消費量	(万トン)	10,797	11,287	11,414	1.1%
搾油向け	(万トン)	9,054	9,477	9,500	0.2%
食用向け	(万トン)	1,355	1,432	1,500	4.7%
種子向け	(万トン)	88	78	84	7.7%
その他向け	(万トン)	300	300	330	10.0%
輸出量	(万トン)	10	15	15	0.0%
総消費量(消費量+輸出量)	(万トン)	10,807	11,302	11,429	1.1%
差引数量(総供給量-総消費量)	(万トン)	▲7	247	139	▲43.7%

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

（調査情報部 横田 徹）